

癒しの交流でおもてなしの しまなみグリーン・ツーリズム

「来て、見て、遊んで、思い出づくり」



しまなみ
グリーン・ツーリズム
推進協議会 会長
西部 知香

しまなみ海道が開通し、
女性グループが体験交流を考える

平成11年、しまなみ海道の開通に伴い、しまなみ地域が注目される一方で、主幹産業である農業は、従事者の高齢化や柑橘類の価格低迷、耕作放棄地の増加等が大きな問題となりました。そんな中、しまなみの豊かな地域資源を活用した体験交流を進めることで、地域の活性化を図っていくと、地元の生活研究グループから声が上がってきました。

平成12年度、県のグリーン・ツーリズム地域連携モデル事業を導入し、地域拳げてのグリーン・ツーリズム推進を目標に、グループで何度も話し合いを持ちました。町村に活動助成を依頼するなど、理解と協力を求め、平成12年6月、しまなみ地域9町村が連携した「しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会」が発足しました。

グリーン・ツーリズムとは何か？
地域を見つめ直す

最初に取り組んだのは、グリーン・ツーリズムを知らない人との合意形成と動機付けでした。視察や研修会等を重ね、「懐かしさと珍しさ」「固定客が付くのは農家の人柄」「お金はかけず、あるものを生かす」「都市住民は心が癒せ、農村住民は心と経済が潤う」などのキーワードを自ら体験し、納得したことが推進の原動力になりました。何も形のないところか



農家レストランでは料理をとおしてお客さんと交流

県内外の方との交流が広がる

ら出発し、生活研究グループは、自分達の地域を改めて見つめ直し、都会へ紹介できる自然や旧跡、郷土料理や生活技術を掘り起こして、体験メニュー作りを進めました。

現在は、地域の農業者や漁業者にも呼びかけ、ミカン狩り、イチゴ狩り、郷土料理作り、魚釣り、潮流体験、地引き網体験など57の体験メニューを提供しています。体験活動が発展し、農家レストランや農家民宿も開業しました。協議会は再編を行い、実践者が主体となる組織づくりに取り組み、「産直市連絡会議」、「体験学習連絡会議」、「農家民宿の会」、「しまなみの食を考える会」の各部会を置き、お互い連携しながら活動しています。

また、修学旅行生も受け入れるようになり、毎年3〜5校が体験に訪れます。生徒達の素直な驚きや喜び、訪れたみなさんとの交流は、とても楽しみであり、生きがいにもなっています。

私たちは、都会の方との触れ合いで元気をもらい、都会の方々は、しまなみの風景や文化や人々に癒されているのではないのでしょうか。



しまなみを体感！ 農家民宿、島、海、郷土料理 ―第12分科会からメッセ―

愛媛大会では、全国の方にグリーン・ツーリズムを通して「しまなみ」を知ってもらおうと、分科会の内容を検討しています。

初日は、しまなみに着いたら、島の幸をふんだんに使った食材で夕食交流会と情報交換を行います。会場は、道の駅「マリノアアシス」はかた」2階にある「愛の地産地消レストラン（農家レストラン）」です。このレストランは、普段、ランチ



能島周辺の激しい潮流を船に乗って体験



生きているタコを使ってタコ釜飯づくりを体験

の提供をしています。分科会のためにダイナーメニューを考えています。旬の食材を使った健康的なメニューをお楽しみください。宿泊は、「しまなみ」にある4軒の「農家民宿」に分宿し、各農家の方と触れ合い、のんびりと過ごしていただきます。農家のおかみさんや、だんなさんのお話も聞き逃せません。話が盛り上がり過ぎて眠れないかも!?

次の日は、天然の要塞といわれた能島村上水軍本拠地「能島」周辺の急流を体感する「潮流体験」と、瀬戸内自慢のタコを使った「タコ釜飯づくり」を体験していただきます。潮流体験は、しまなみグリーン・ツーリズムで受入実績ナン



農家の暮らしを体験できる農家民宿

バーワンのメニューです。タコ釜飯は、伯方島周辺で獲れた生きたタコを使って、塩でもむところから始まります。タコの吸盤に吸い付かれて、キヤーキヤー言いながらの体験になると思います。味も香りも絶品ですよ。

第12分科会では、お互いが明日への活力になるよう、「しまなみ」らしいおもてなしをスタッフ全員で考えています。きつと納得していただけること間違い無いです。参加者全員で、地域づくりについて語り合います!!お待ちしております。